

# 令和3年度 学校関係者評価委員会検討内容に対する報告書

第1回学校関係者評価委員会 令和3年4月27日

第2回学校関係者評価委員会 令和3年11月17日

第3回学校関係者評価委員会 令和4年3月28日

## 1、全体を通して

- ① 令和2年度の結果で、前年度評価項目より下降しているものがある。評価内容自体に大きな変化はないようであるが、自己評価する側も評価基準を徹底するなどの改善は必要である。
  - 今後、学校評価を実施するうえで再度評価項目と基準の内容を共通理解する時間を設け、内容確認してから実施する。
- ② 将来の構想や長期計画・短期計画を明確にし、目標管理をしてはどうか
  - 前回のswot分析から三年の経過が立っているので、再度現状を分析し自校の可能性や見逃していた強みに気づき長期短期計画の見直しを図る。

## 2. V 経営・管理課程について

- ① 組織体制の取り組みにおいて、教員の資質向上に対しては、キャリアラダーにそった研修が行われている。各自、目標を持って学習できている。
  - 計画的に研修等は、実施している。今年は、カリキュラム改正の趣旨を踏まえ、全教員で研修参加の機会を多くし、共通理解のもとカリキュラム改正に取り組んだ。
- ② 組織体制の取り組み方
  - 組織体制の理解を深めるために、定款・規程集綴りを活用するよう促す。  
教員は、自己の役割を理解し、職員会議や会議に出席し意見を述べる努力が必要である。決定事項の周知が遅れることがないように、実習中など、決定事項を速やかに伝達するように努め情報の共有を図る。
  - 教職員組織の一員として、理事会総会の資料等参考に財政基盤を理解する必要がある
- ③ 養成所に関する情報提供について  
オープンキャンパスは実施できなかったが、別の形で工夫してできたことはよかった。
  - ウェーブ版での学校説明会を実施 44件と学校ごとの進路説明会を5件実施(来校と訪問)
- ④ 学生支援について
  - ・物品を整えるうえで管理者側の整備計画を明確にする必要がある。  
・日本学生支援機構・自治体の看護職員修学資金など取り扱っている。また授業料の分納制度もあり経済面の支援体制は整っている。  
・スクールカウンセラーの配置や学年担当による個人面談を行い、精神面の支援体

制は整っている。

・学習面ではアカデミー講座のガイダンスを低学年から受け、二年生と三年生は、学内に講師を招き国家試験対策の授業を月一回受講している

⑤ 養成所に関する情報提供について

■効果的に情報提供できるように、講師に対しての懇話会開催内容や日時について検討する

3. VI 入学について

① 入学の評価は前年度より下降がみられたが入学者は確保されている。

■令和元年 2.9⇒令和 2 年 2.8 と評価項目は満たしているものの、令和元年度と比較し 0.1 下降がみられた。しかし、入学者選抜については、教職員全体で判定会を行い、選抜することができており、選抜方法や考え方についても明確になっている。また、入学者の傾向などを分析し、学校訪問を計画的に実施することができている。訪問計画についても職員会議を通して教職員に周知されている。今後、新カリキュラムへ向けて、学校としてどのような学生を求めるのかを明確にした。

4. VII 卒業・就業・進学について

① 卒業時の到達目標を捉える方法について、学生の周知はどうなっているか

■入学時に学校便覧を配布し、オリエンテーションを利用し説明している。学年末にカリキュラム評価も実施し到達度の確認をしている。

② 卒業時の到達状況の把握はどうなっているか

■学習面に関しては、卒業判定会を実施し学生の学力の到達度を確認し国家試験合格状況からも判断している。生活面においては、出席状況などから判断している。またカリキュラム評価等を行い学生の学びの到達度も確認している。

③ 学校で学んだ知識が実践の場で生かされ学びの統合ができているか、また確認しているか

■なかなか学生は、学校の学びと実践の場での学びが結び付けられず、活かされた知識になっていない。

教授する側も教育方法の工夫が必要と痛感している。ただ知識を詰め込む教育や繰り返し練習させるだけの教育方法ではだめで、学生が主体的で行動に繋がるような教育方法を取り入れ改善していくことが求められる。

カリキュラム評価年度末に実施しており、その中で確認している。

④ 同窓会の活動として、同窓会報誌を送付しているが届いてないという状況はあるか

■初回発送より発送件数がだいぶ減っている。職場をやめた人、所在が分からない人など調査は困難な状況でもある。

学校としては、キャリアアップした同窓生など在校生の目標となってくれるよう

な同窓生の情報がほしい。どのように情報を集めていくかが課題。  
文化祭を利用し、卒業生2名の活動の様子をZ o o m を使い職場より発信してもらった在校生は、熱心に聞き入っており新たな目標が持てた。

## 5. IX 研究について低い状態は続いている

- 研究時間の確保など支援体制を明確に周知し研修しやすい体制を図る
- 学会など研究発表の場を紹介するなど委員会活動を活発にする

## 上記に対しての意見取りまとめ

1. 全体を通して、報告資料からも真摯に取り組んでいる様子が見えてくる。
2. V 経営・管理課程について
  - ② の組織体制の取り組み方のところで教職員組織の一員として、理事会総会の資料等参考に財政基盤を理解する必要があるため理解しやすい資料を作成し説明する機会を設けてはどうか
    - 3月22日事務長より、以下のことが説明される
      - ・ 公益社団法人について
      - ・ 財政基盤について
    - ③ のウェブ版での学校説明会に対して今後も学生が興味を示すような進化させると良い
      - ホームページにも掲載し、社会人に対しては、時間帯の工夫等も検討している
3. VII 卒業・就業・進学について
  - ③ の学校で学んだ知識が実践の場で生かされ学びの統合ができることも大切であるが、同様に人間性・倫理感なども培っていただけると良い。
    - 学校生活や教養講座などを通して、考える機会を持ち指導にあたる。
  - ④ の同窓会活動として、SNS等も活用し若者の目線で学生がモチベーションがアップするような取り組みをこれからも継続していくと良い
    - 卒業生の活躍の様子や対談等同窓会誌に掲載する